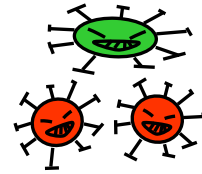
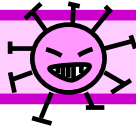


感染症に気をつけよう!

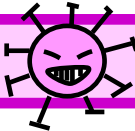
2018年【12月号】

横浜市内の感染症 流行状況

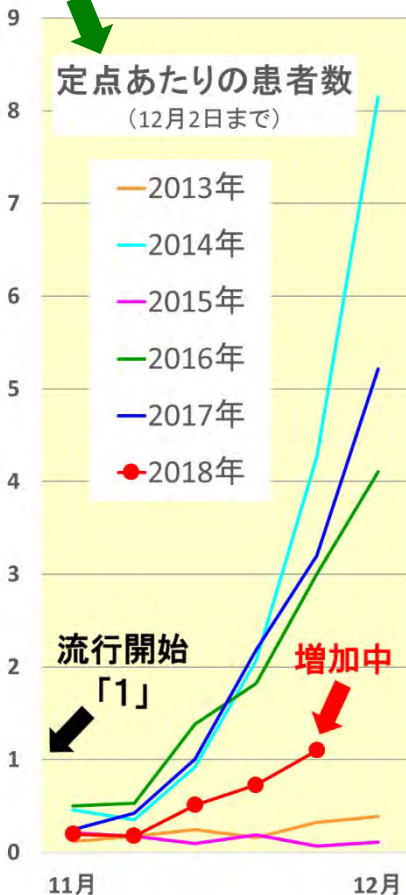


感染症*	流行状況		説明【解説付き既刊号等】 ← クリック
風しん**	多発	横ばい	30~40代の男性を中心に、報告数が多い状態が続いています。【'18.10号】【風しん対策事業】
伝染性紅斑** (リンゴ病)	警報	増加	昨年11月から増加傾向になり、この時期では過去6年間で最も多く報告されています。【'18.7号】

今、気をつけたい感染症 インフルエンザ



- 定点とは、毎週、患者数を報告していただく特定の医療機関のことです。
- そこから報告された患者数の平均が、**定点あたりの患者数**になります。
- この数値が「1」を超えて、**流行が始まりました**。



■ 38℃以上の発熱・頭痛・関節痛・筋肉痛・全身倦怠感などの症状が、急に出るのが特徴です。

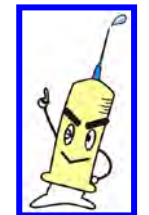
■ **重症になる例も****みられます。

■ **予防の基本**は、**正しい手洗い****です。

■ **インフルエンザワクチン****には発症をある程度抑える効果や、重症化を防ぐ効果があるとされています。かかりつけ医に相談しましょう。

■ **かかったかな?!**と思ったら、**咳エチケット****を守り早目に受診してください。

■ 重症化を防ぐため、また、他の人につさないためにも、無理をせず**学校や仕事は休み**ましょう。



参考ホームページ *：国立感染症研究所 **：厚生労働省

横浜市衛生研究所 感染症・疫学情報課 【横浜市感染症情報センター】